



今後の友好交流を模索するため、去る3月に訪中した小野教育長の訪問記を3回にわたり掲載します。

●外は寒いが、心は温かい「綏化市」

綏化(すいか)市は、黒竜江省の省都・ハルビン市の北、高速道路を利用して1時間。見渡す限り広大な農業地帯であり、山岳地帯はまったく確認できない、北の大地の中にある。

綏化市人民政府は、3万5千km²(新瀋陽の約3倍)、人口500万人(新瀋陽の約2倍)を管轄し、市庁舎も11階建ての重厚なビルディングを構える。庁舎付近の市街地には大きな建物が多い上、ホテルなど建設中のビルも多く、開発と建設ラッシュが進行中である。

【教育長の中国訪問記】

その1「綏化市」編

主要産業は農業。黒土で覆われた肥沃な農地は、早くから日本の技術により開拓された。「農業科学技術模範園」の視察から、水稻栽培などにも技術的な改良が施されていることがうかがわれ、正に中国の穀倉地帯となっているようだ。

余談であるが、黒竜江省

の東北部・三江(さんこう)平原は、新瀋陽の日中友好協会会長であつた故・佐野藤三郎氏(元亀田郷土地改良区理事長)が開発に尽力したことは有名であるが、同協会の元理事長の

故・奥村俊二氏は胎内市(旧中条町)の出身で、測量会社を営んでいたことから、佐野氏の片腕としてこの地の開発に寄与した。新瀋陽と黒竜江省の友好提携は、三江平原の農地開発がきっかけとも言える。

綏化市訪問時、春先の晴天の日にも関わらずマイナ



農業科学技術模範園を視察する小野教育長(3/25)〈右は綏化市・聶副市长〉

ス14℃を記録した。訪中前から想像していた以上の極寒の地であつたが、地元関係者の歓待は温かく、人々に活気が感じられる。黒竜江省外事弁(外交担当)の話では、「東北地方は、冬は何もすることがないので、度数の高い酒を飲んで体を温め、客をもてなし、交流を深める」という習慣が強いのだそつだ。東北地方独特とも言うべき人情とともに、新瀋陽とも似た風土・風情を感じる言葉だ。

滞在中の食事は、典型的な中華料理。特に餃子(日本で言う「水餃子」)は種類も多く、美味しい。すでに日本人にも受け入れられている食文化は、日本と中国が近い関係にあることを物語っている。

「のれんす号」好評運行中!!

デマンドタクシー「のれんす号」Q & A(第2回)

利用者の皆様から多く寄せられた、デマンドタクシー「のれんす号」についてのご質問にお答えします。

Q 坂町にあるスーパーなどで買い物をしたいのですが、デマンドタクシー「のれんす号」で行けますか?

A デマンドタクシー「のれんす号」は、先月号にも掲載しましたとおり、市内における公共交通の利便性の向上、生活交通の足の確保、交通空白地域の解消を目的として運行しており、さらにその結果、中心市街地などへ人が行き交うことによって、胎内市内の商店などが賑わい、地域の活性化に繋がることを期待しています。

県立坂町病院など市外への乗り入れについては、交通空白地域の解消に繋がるとともに、運行ルート上、効率的に利用者を送迎できる範囲に限り運行しています。

今回のご質問のように、坂町にあるスーパーなどへの運行については、今ほど述べました目的から外れることから、「のれんす号」の乗り入れはしていませんので、ご理解をお願いします。

なお、坂町方面へは、JR坂町駅、県立坂町病院、佐野医院まで「のれんす号」を運行していますので、ぜひ、ご利用ください。



問い合わせ ▶中条町商工会 ☎ 43・3624 ▶総合政策課 (内線 1362・1365)